

日	月	火	水	木	金	土
						1
2 地域イベント 「ちゃが馬七タ」参加 よみきかせ	3 休館日	4	5 ブックスタート おしゃべりタイム	6	7 あかちゃんおはなし会 10代向け学習席開放	8 児童イベント 「こわいおはなし会」
9 よみきかせ	10	11	12 おしゃべりタイム	13	14 10代向け学習席開放	15
16	17 休館日	18	19 ブックスタート おはなし会 おしゃべりタイム	20	21 あかちゃんおはなし会 10代向け学習席開放	22 ブックスタート
23 よみきかせ	24 休館日	25	26 ブックスタート おしゃべりタイム	27	28 10代向け学習席開放	29 児童イベント 「夏 おはなしまつり」
30	31 休館日					

図書館トピックス

紙芝居マップでめぐる ねりまの昔ばなし

TOPICS



練馬に伝わる昔ばなしがあることをご存知でしょうか？ 石神井図書館で活動する「練馬ふるさと紙芝居サークル」は、聞く機会が少なくなった昔ばなしを後世に伝えようと『ねりまの昔ばなし』（石神井公園ふるさと文化館）をもとにした、ねりまふるさと紙芝居の制作に取り組んでいます。毎年8月の第1日曜日に石神井氷川神社で開催されるお祭り「ちゃが馬七タ」では、サークルの方々が自ら手作りの紙芝居の公演を行い、子どもから大人まで多くの来場者が楽しんでいます。石神井図書館はこの公演にあわせて図書館所蔵のねりまふるさと紙芝居を展示するとともに現在制作されている15作品がどの地域の昔ばなしを題材としているのかわかる「ねりまふるさと紙芝居マップ」の作成に協力しています。ねりまふるさと紙芝居は、こどもちいきコーナーに設置、ねりまふるさと紙芝居マップは、「練馬ふるさと紙芝居サークル」紹介リーフレットに掲載しています。ぜひ住む町のお話に親しみゆかりの場所を巡ってみてください！



図書館トピックス

POPコンテスト ～SYAKUJII AWARD～

TOPICS

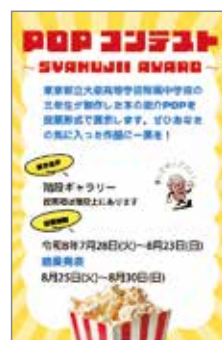


7月28日(火)から8月30日(日)まで、石神井図書館階段ギャラリー・2階廊下で「POPコンテスト～SYAKUJII AWARD～」を開催します。

東京都立大泉高等学校附属中学校の生徒のみなさんが制作した、本の魅力を伝える紹介POPを展示します。今年度はコンテスト形式で開催し、来館者のみなさまにお気に入りのPOPへ投票していただきます。投票期間は7月28日(火)から8月23日(日)までです。結果発表は8月25日(火)から8月30日(日)まで行います。

「読んでみたい！」と思った本を紹介している作品や、心に残った作品にぜひご投票ください。

みなさまのご参加をお待ちしております。





きみはシャクジイクエストを知っているか!!

7月1日から始まった「シャクジイクエスト」は、小学生を対象としたクイズ形式のイベントです。図書館開館中であればいつでも児童室で参加できます。参加者は、百科事典『ポプラディア』を使って、シートに掲載された4問の問題に挑戦します。問題用紙は全部で16枚あり、すべてクリアすると達成記念の認定証を受け取ることができます。

すでに全問クリアした子どもたちも多く、毎日、石神井図書館の児童室は大変なにぎわいを見せています。

クイズを解くたびに、5つの宝箱の中から1つを開けることができ、中に入っている宝物を受け取ることができます。そのため、1日で一気に挑戦する子もいれば、毎日のように通って参加する子もあり、多くの子どもたちに楽しんでいただいています。

宝物が、欲しかったものだった子も、そうでなかった子も、百科事典を使ってさまざまなことを調べる体験を通して、調べる楽しさや知ることの喜びを感じてくれたらと思います。そして、楽しみながら調べることで、百科事典や図鑑などの使い方を身に付けてくれることが、何よりのプレゼントになるのではないかと考えています。

シャクジイクエストは8月30日まで実施しています。また、8月1日からは問題が新しくなります。7月の問題をすべて解いた子も、これから挑戦しようと思っている子も、ぜひご参加ください。

なお、宝物には限りがあります。なくなり次第宝物の配布は終了となります。あらかじめご了承ください。なお、宝物の配布終了後もクイズには引き続きご参加いただけます。

また、昨年から夏休み期間中、図書館員が「図書館戦隊レファレンジャー」の缶バッジを着けてカウンターに立ち、子どもたちのレファレンスのお手伝いをしています。大人に声を掛けにくい子どもが少しでも減ることを目指した取り組みです。戦隊ものにちなみ、バッジのカラーは5種類あります。図書館に来た際には、ぜひ全員の色を見つけられるか挑戦してみてください。



一般展示のおすすめ

彼らの生きた証を確かめてください。

『無言館 戦没画学生「祈りの絵」』 窪島誠一郎 / 著 講談社

もっと生きたい、もっと描きたい——画家への志半ばにして戦争で命を落とした若者たち。その絵を戦後50年の間守ってきた遺族たち。著者の窪島氏は日本各地を回って遺作品を集め、1997年長野県に私設美術館「無言館」を作りました。自画像、妹の肖像、最愛の妻の肖像、理想的に“盛った”一家団欒の図、風景画、彫刻…。まだ未熟かもしれないが一途な作。遺作品の収集に協力し、本書に『還らぬ友人たち』という一文を寄せた画家・野見山暁治氏(練馬区名誉区民)も、美術学校(現・東京藝大)繰り上げ卒業後に召集されましたが、満州から生還、2023年に102歳で亡くなるまで画業を続けました。窪島氏は今年3月の著書『私の「思索」ノート』にも、無言館に関するさまざまな思いや運営の苦労を綴っています。(石神井図書館スタッフ M.)



一般図書



8月のピックアップ展示

令和8年7月28日(火)～令和8年8月23日(日)

一般展示 「戦争と平和」



青少年展示 「冷やし本、はじめました」



児童展示 「あついひはなにをする？」



CD展示 「夏の夜、幻想の調べ」

